

東京都庭園美術館

事業名	会期	概要
「20世紀のポスター 図像と文字の風景」	2021年1月30日 ～4月11日	今からおよそ100年前、政治・産業・芸術等のあらゆる領域で、社会を“構成”しようとする気運が高まりました。とくにデザインの領域では“ 構成的デザイン ”の潮流が生まれます。本展はビジュアルデザインの基盤として、今なお参照される 構成的ポスター に注目し、 20世紀のポスターが織りなす図像と文字の風景 を辿ります。
「建物公開2021 艶めく アール・デコの色彩」	2021年4月24日 ～6月13日	年に一度の「建物公開」として、旧朝香宮邸(重要文化財)の魅力を紹介し、これまでに培った調査研究の成果を公開します。また、 部屋のカーテンを開け放ち、家具・調度を室内に配して、宮邸当時の雰囲気をお楽しみいただける空間展示 を行います。新館ギャラリーでは、 アール・デコの色彩の傾向を表す作品や資料を展示 し、その特徴や知識を深めることのできる内容を構成します。
「ルネ・ラリック 夏の扉 —ガラスが彩る光の邸宅」	2021年6月26日 ～9月5日	アール・ヌーヴォーから、アール・デコにいたるフランス装飾美術を牽引し旧朝香宮邸に参加した主要作家のひとりである ルネ・ラリック 。コロナ禍により、新しい生活様式が提唱されるいま、そのガラス作品を通して「 生活の芸術(L' Art de Vivre) 」を体現したラリックの芸術性と実業家としての革新性を紹介。北澤美術館コレクションに加えて、 国内外の機関や個人所蔵の逸品を、アール・デコ様式の旧朝香宮邸ならではの空間とのコラボレーションによって展示 します。
「英国王室に愛された庭園 Royal Kew 美しい花々」	2021年9月18日 ～11月28日	ロンドン郊外にある世界最大級の植物園 キューガーデン のコレクションを中心に、18～19世紀初頭に描かれた 約100点のボタニカルアート(植物画) を展示します。また、 キューガーデンの発展に寄与したシャーロット王妃(1744-1818) にスポットを当て、彼女が愛した ウェッジウッド製の陶磁器「クイーンズウェア 」、さらに、当時の建築や装飾に取り入れられた ジョージアン様式の部屋を部分的に再現 し、ボタニカルアートを愛した人々の暮らしぶりを紹介します。
「奇想のモード」	2022年1月15日 ～4月10日	20世紀最大の芸術運動であるシュルレアリスム は、表現の枠を超えて、 時代のあらゆる表層や意識の深層にまで影響を及ぼしました 。常に時代に先駆け革新的なモードを生み出そうとする優れたクリエーターたちの意識には、シュルレアリストたちの理念と重なり合うものが散見されます。ここでは 奇想 をテーマに、 その自由な発想と創造力によって、モードの世界にセンセーションをもたらした美の表現に注目 しようとするものです。

※この内容は2021年2月8日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都庭園美術館広報担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都庭園美術館

〒108-0071 港区白金台5-21-9

電話 03-3443-0201 FAX 03-3443-3228

<https://www.teien-art-museum.ne.jp>

【開館時間】10時～18時

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始

※ 2021年4月より、休館日が毎週月曜日に変更となります。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。(最新情報は公式サイトでご確認ください)